

T O P I C S

漆の難燃化に関する研究

— 漆塗り建築内装品の防災対策 —

繊維生活部 梶井紀孝(かじい のりたか)

kajii@irii.jp

専門：漆技術、工業意匠

一言：新しい漆技術、製品の開発を支援します。



公共施設や集合施設、高層や地下の展示場などの内装品は、消防法に適應する必要があり、壁紙やカーテンなど製品の種類に応じた防災基準が規定されています。そのため、木材と同等の着火や延焼性を示す漆塗り製品は、より難燃性を高める対策が必要となります。そこで、工業試験場では、漆塗り内装品の用途拡大を図るため、漆の難燃化に関する研究を行いました。

漆に配合する難燃剤の種類や配合率、塗装工程、素地の種類が異なる40種類以上の漆塗り板サンプルを作製しました。そして各サンプルに対し、図1に示すような防災性能評価のための燃焼試験(45°メッケルバーナー法)を

行いました。その結果、不燃布及び難燃化漆、難燃化合板の利用により、図2のように通常の漆塗り工法(①)に比べて、延焼の炭化面積を約半分に低減でき、消防法の基準を満たす工法(②～④)がわかりました。

今後は、本技術による店舗の壁装飾パネル等の新製品開発を支援していきますので、ぜひご相談ください。



図1 漆塗り板の燃焼試験

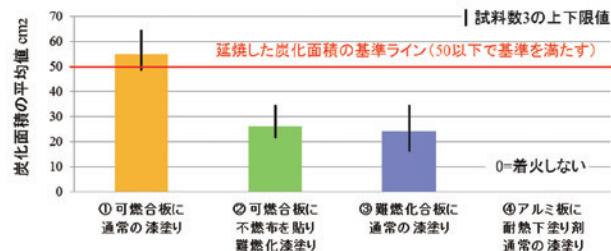


図2 燃焼試験の結果